

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



子どもも大人も楽しんだ5月の宇久須合宿（本文6～7ページ）

### Contents

- 代表就任のご挨拶・第17回会員総会の報告 ..... P 2
- 水をはぐくむ森づくり（会員総会記念講演） ..... P 3
- 宇久須合宿報告 ..... P 6

2011.7

140

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

# 代表就任のご挨拶

前中 久行

半夏生、合歓木、夾竹桃の花の咲く候、GEN 会員のみなさまおよび関係の方々には、ますますご活躍のことと存じます。

さて、私、前中久行は、このたびの会員総会で、立花吉茂先生より GEN 代表を引き継ぐことが決まりました。1994 年に立花吉茂先生、遠田宏先生とともに高見邦雄さんにつれられて大同へ行ったのがきっかけで、GEN の活動を通じて様々な経験をさせていただきました。まずは、そのような得難いまた楽しい活動の場を提供していただいた GEN ならびに支援者の方々、ともに

汗、時には冷汗を流した内外のいわば同志の方々にお礼を申し上げます。どちらかといえば乾燥地への興味が私の牽引力でしたので、今の時点で中国における緑化協力の先を明確に見通せているわけではありませんが、GEN が目指す緑化活動をつうじた「地球環境のための国境をこえた民衆の協力」と、中国や環境への想いの実現にむけた「自立した個人のネットワーク」として、これまでの GEN の実績をさらに積み増し、また新しいことにも活動がひろがればよいなあと思っています。その芽



生えは、すでに始まっていると感じています。GEN にかかわることが楽しいということがなによりも大切だと思いますので、様々なかたちでのみなさまの参加、提案、ご支援をお願いします。

## 第 17 回会員総会の報告



6 月 11 日、大阪市立弁天町市民学習センター講堂にて、緑の地球ネットワーク第 17 回会員総会が開かれました。会員 536 名／団体のうち出席者数 53 名、書面による決議への参加 177 名、委任状提出 80 名、合計 310 名で総会が成立しました。

### 【議事】

2010 年度事業・決算・監査報告とその承認、2011 年度事業計画と予算の提案と承認、役員改選の提案と承認がおこなわれました。

新役員については、次のとおりです。なお、有元幹明さん、竹中隆さん、前川宏さん、山永ユカリさん、向川郁郎さん、小畑勝裕さん、石倉英一さん、末吉真さんが役員を退任しました。

### 【第 16 期役員】

- 代表 前中久行
- 副代表 川島和義

- 監査 池場道明／早草晋
- 事務局長 高見邦雄
- 会計 太田房子
- 世話人 会田伸子／上田信／神吉久永／白川洋二／巽良生／東川貴子／福本麻衣／藤沼潤一／藤原國雄／干場草治／松島清／松永光平／宮崎いずみ／宮本敏幸／向井美香／村松弘一
- 名誉顧問 立花吉茂
- 顧問 石原忠一／小川眞／桜井尚武／遠田宏

### 【懇親会】

場所を変えて食事とお酒をまじえた懇親会となりました。遠方からの参加者もまじえて 43 名が参加し、にぎやかに談笑を楽しみました。

## 助成金決定のお知らせ

国土緑化推進機構の緑の募金公募事業「持続可能な森林再生のモデルづくり(中国山西省大同市)」として、150 万円の助成が決まりました。

## 日中植林緑化交流フォーラム報告

6 月 1 日から 3 日間の日程で、国際森林年を記念して日中植林緑化交流フォーラムが北京のオリンピック会場あとの国家会議センターで開催されました。日本経団連と中国経済貿易委員会が開催する日中グリーンエキスポ 2011 の一角を借りて開催されたもので、中国の植林に協力する日本の民間団体が構成する実行委員会が主催しました。

3 日間をつうじて、ポスター展示と相談会が開かれ、6 月 2 日の午後にはシンポジウムが開催されました。主催者を代表して梶谷辰哉さん(国土緑化推進機構専務理事)の挨拶などがあり、高見邦雄(緑の地球ネットワーク)、黄勝澤さん(海外林業コンサルタンツ協会)、劉孟雨さん(中国科学院石家荘農業研究所)が順に事例報告をおこない、そのあと吉川賢さん(岡山大学教授)をコーディネーターとしてパネルディスカッションをおこないました。



2011・国際森林年



## いまあぐできる GEN への協力

### ■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費（年額）	
一般会員	12,000 円
家族会員（同居の家族2人目から）	6,000 円
学生会員	3,000 円
ジュニア会員（中学生以下）	1,000 円
団体会員	12,000 円
賛助会員	100,000 円

※会費には会報購読料が含まれています。

### ■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみませんか。年間購読料 2,000 円。

### ■緑化基金、運営カンパもとも

金額はいくらでもけっこうです。GEN への寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。みなさんの応援をお願いします。

\*緑化基金の 20% は事務管理費になります。

### ■絵はがき『黄土高原の花』をご利用ください

黄土高原の色あざやかな花ばなを絵はがきにしました。暑中見舞いに。

絵はがき『黄土高原の花』8枚組・300円（送料別途。5セット以上送料無料）

### ■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを回収しています。通信費にあてています。

### ■古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

### ■外国コイン・商品券などを集めています

使うあてのない図書券、文具券、各種商品券、外国コインがありましたらお送りください。

### ■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ポ

ランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN 事務所から連絡します。

\* \* \* \* \*

### 【税制上の優遇措置が拡大されました】

緑の地球ネットワークなど認定 NPO 法人への寄付にたいする税制上の優遇措置が拡大され、7月1日から施行されています。認定 NPO 法人はその活動の透明性などを国税庁長官が認定した法人で、緑の地球ネットワークは 2005 年 6 月から認定されています（期限は 2014 年 5 月 31 日）。

認定 NPO 法人への寄付は従来「寄付金額 - 2000 円」を所得額から控除していましたが、今回の改正で寄付金額の一定割合を税額から控除することを選択できるようになりました。

たとえば、認定 NPO 法人に 10 万円の寄付をしたばあい、従来なら「100,000 円 - 2,000 円 = 98,000 円」が所得額から控除され、所得税率が 10% の人なら 9,800 円の所得税が減額されていました。同じケースで、税額控除を選択すると、

「100,000 円 - 2,000 円 = 98,000 円」の 40% にあたる 39,200 円が所得税（ただし所得税額の 25% が上限）から、10% にあたる 9,800 円が地方税から、合計で 49,000 円が減額されることになります。

対象となるのは 2,000 円以上の寄付金で、確定申告が必要です。2011 年 1 月 1 日にさかのぼって適用されます。その他の要素が加味されることがありますので、税務署にご相談ください。

企業（法人）からの寄付金は、一般寄付金の損金算入限度額とはべつに、別枠の損金算入限度額が認められています。

また個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO 法人に寄付すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合寄付金となるのは、緑化基金・運営カンパと、会費のうち 1 口以上の部分・賛助会費から 12,000 円をひいた金額です。くわしくはお問い合わせください。

### GEN 自然と親しむ会

## 伊吹山のお花畑で薬草の勉強を楽しもう

●集合：7月24日（日）9時50分

JR「関が原」駅

10時発のバスで伊吹山山頂へ

●参加費：200円（保険料を含む、交通費は含まない）

●交通費 JR「大阪」→「関が原」2,210円、

バス「関が原」→「伊吹山」1,000円

●持ち物：ハイキングの服装、弁当、飲み物、雨具等

●申込み：7月21日までに緑の地球ネットワーク事務所へ

氏名・住所・年齢・性別・電話番号をお知らせください。

※雨天の場合は中止します。

※ルート：JR「関が原」→バスで伊吹山山頂→バスで JR「関が原」

※名古屋方面から参加の方は JR「大垣」

からもバスに乗れます。

標高 1,377m の伊吹山は滋賀県の最高峰で、昔から薬草の山として有名です。

織田信長によっても薬草が植えられ、約 1,300 種の植物が育っています。

7 月は花の最盛期です。たくさん的高山植物、山野草に出会うことができます。

緑の地球ネットワークは中国大同市の「緑の地球環境センター」に有用植物見本園を建設します。少し薬草の勉強をしてみましょう。

伊吹山は大阪よりも名古屋に近い位置にありますので、中部地方にお住まいの方もぜひご参加ください。

GEN 会員総会記念講演抄録

# 水をはぐくむ森づくり

山田 健 (サントリーホールディングス株式会社)

会員総会に先立っておこなわれた記念講演、「水をはぐくむ森づくり」では、実際のフィールドで汗を流してさまざまな調査や森づくりに取り組んでおられる興味深いお話をうかがいました。ほんの一部ですが、概要をお伝えします。(文責=編集部)



## ●キーワードは持続可能性

地下水にはおおざっぱに言って2種類あります。持続可能な地下水と持続不可能な地下水。持続可能な地下水というのは、水源涵養エリアでいまも水が涵養されている地下水です。こういう水は一定の量を守って利用している限りはなくなりません。一方、持続不可能な地下水というのは、森林荒廃などで涵養力が失われたとか、あるいは気候が変動してしまっているやもう雨が降らない、といったところの地下水で、化石水といわれます。アメリカの大穀倉地帯がそうです。農業用水の地下水への依存度は10%ほどですが、その10%を、雨がふらない、水が足りない時期につかっていますから、地下水がなくなると、成長期のトウモロコシがばたっと枯れてしまう。化石水にたよるのは危険なことです。キーワードは、持続可能性です。

私は神奈川県湯河原の出身ですが、江戸時代は川にお湯が流れていました。明治になって井戸を掘ったら川のお湯が涸れてしまって、いま湯治場は上流の奥湯河原というところなんです。これを命の水でやると大変なことになります。たとえば井戸掘りの援助をする。これが、水が地下でどう流れて、どれぐらいの量がどこからきていると確認したうえなら素晴らしいことです。ところが、現実にはだいたいいきあたりばったり。新しい井戸を掘ってきれいな水がでると、その水で農地や家畜を増やしたりします。人も増える。そこで、

ある日突然井戸が涸れたらどんなことが起こるか。あるいは新しい井戸を掘ることによって前の井戸が涸れたらどうなるか。そこまで考えないといけない。バングラデシュでは井戸水のヒ素汚染があります。独立直後、コレラやチフスが大発生した時、国連や世界銀行がたくさん井戸を掘った。ところがほとんどの井戸がヒ素で汚染されていて、いま多くの人がヒ素汚染で苦しんでいます。

## ●水源の森を守る活動

そんなふうに地下水は枯れることも、汚染もあります。サントリーはその地下水にほぼ全面的に依存しているので、貴重な地下水の安全性とかおいしさ、水質水量、これを守るために、水源の森を守ろうという活動をはじめました。全国の工場の水源涵養エリアを特定して、そこで地下水をはぐくむ力の大きな森を育てます。ボランティアではありません。数値目標と品質目標があります。数値目標は、森で地下水が涵養される量が、工場できみ上げる地下水量を上回れば持続可能な水の使い方になる。具体的には総面積7000haです。なんとかあと数ヶ月で達成できそうなところまでできました。

品質目標としてはまず、水源涵養林としての高い機能をもった森林。それから、生物多様性に富んだ森林、あるいは洪水・土砂災害などに強い森林。CO<sub>2</sub>の吸収力の高い森林。豊かな自然とふれあえる美しい森というのは、一部子どもたちの森林・環境教育の場になっている森があります。

そもそも地下水はどのようにして涵養されるのか。森は緑のダムだといいますが、現実には葉から水を蒸散したりするので、森に木を植えたからといって水が増えることはありません。じゃあ、森があって何がいいのか。森がない、無機質の砂や粘土は、なかなか水

が染みません。森林では、木の根や草の根がはいる。木の葉が落ちてきて腐る。それを餌にして小動物や微生物が土の中で繁殖して、団粒構造っていう、隙間だらけの、スポンジみたいなふわっとした森林土壌になります。隙間が多いから大雨が降っても一時的に貯留して、洪水のように流れてしまうことがなく、いったん地下にはいって、それからゆっくり時間差をおいてしみ出てきます。全く雨が降らない冬のあいだもずっと川に水が流れる山になっていく。そういう山になると、川の流量と地下水の総量は減るけれど、利用可能な量は増えるということになります。

もうひとつ、団粒構造のなかにはいろいろな微生物がいて、生物的な浄化をおこなっています。十分な微生物層があるともすごく早く浄化されます。健全な森づくり-水づくりの目標は、実は土づくりにあるわけです。

活動を科学的なものにするためにまず社内に水科学研究所をつくり調査をはじめました。水の成分分析や地下の地質や地層、工場周辺の井戸情報をつなげていくと、地下水がどう流れているかが見えてきます。それから、酸素その他の同位体を調査して、どのあたりに降った雨がわれわれのところに着いているかわかったら、そのあたりで植生調査をします。そして、土地の所有形態とか法的規制を調べて候補地をしばり、関係者と協議をして、天然水の森を設定します。土地は原則として無償で借りて森の整備をしますが、木は土地の持ち主のものでありますから、いい木を搬出して販売できた場合にはそのお金は全部所有者にもどします。われわれは上の森をつくることによって下にきれいな水がしみ出してくることをめざしています。

## ●森林整備の現状

具体的にどんな整備をしているかと



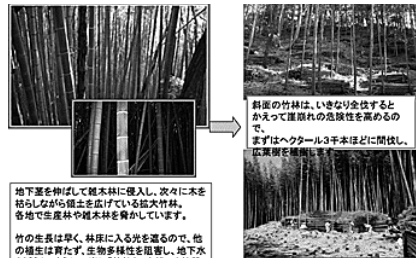
いうと、まずは放置されたスギ・ヒノキの林です。戦後、一気にスギ・ヒノキに植え替えて、40年、50年たった。それが間伐材の利用の減少や、安い外材の流入によって放置され、線香がたつてみたい森になった。こういう森でも、ちゃんと整備したら半分ぐらいは健全な森林になるので、そんなところをわれわれが借りて、健全な生産林に誘導しています。雨から土を守る草を生える状態にしなきゃいけないんですけど、いまの人工林は真っ暗ですから草が生えない。草が生えるようにするためにはちょっと強めの間伐をします。いったん光が入りはじめると、埋蔵種子から草や広葉樹が生えてきます。

間伐は危険なのでプロに任せて、社員ボランティアは枝打ちをします。ヒノキ林というのは、枝が腐りにくくて枯れても落ちない。真っ暗になります。そこでまずは間伐をしたうえで、枝打ちをする。そうすると光環境がよくなります。一方、もう全然材にならないようなところは、強めの間伐を繰り返して、針広混雑林に誘導します。

それから道づくり。道がないと山には入れません。昔の道は山をくずしましたが、大橋慶三郎さんやその弟子の岡橋さんが木の葉の葉脈にヒントをえた道の付け方、大橋式を完成した。それをさらにアレンジして、田邊さんという人が安くできる画期的な道作りをはじめました。昔と何が違うかという、まず無理なところにつけない。それから、雨をまっすぐ流さない。山の中に直線はありません。必ず曲線です。くずれない山は、水の道がなくて、必ず水が分散するようになっています。それから、木が土を守っている。そういう道を彼らはつくっている。自然にとけ込んだり面のきれいないい道になります。

間伐材も可能な限り搬出して利用します。切り捨て間伐すると腐ってCO<sub>2</sub>がでますが、家につかると、その家がつぶれるまでは固定できる。材にならないものはチップにしたり、発電にまわしたり、紙にしたりしています。

これは拡大竹林です。モウソウチクは3mぐらい地下茎を伸ばしてそこでタケノコを出して、20mから25mぐら



地下茎を伸ばして種木林に侵入し、次々に木を枯らしながら植込みを広げている拡大竹林。各地で生産林や種木林を脅かしています。竹の生長は早く、林床に入る光を遮るので、他の種生は育たず、生物多様性を阻害し、地下水

斜面の竹林は、いきなり倒すと、かえって崖崩れの危険性を高めるので、まずはヘクターール3千本ほどに間伐し、広葉樹を植栽する。

い一気に伸びます。内側の木は日陰になって枯れる。放置するとまわりの雑木を枯らしながらどんどん広がります。これが急斜面をおおうと、大雨や地震、場合によっては枯れたりすると、一気に崖崩れをおこして、表土が全部なくなります。そこでまず間伐をすると、自然に木が生えてくることがあります。ただし、ある程度日陰を好む常緑樹がメインになることが多い。京都では常緑樹が好まれないので、落葉樹にしたいといわれてどうしようかと思っていたら、近所に小学校があったので、ここで切った竹で植木鉢をつくって、4年生がドングリを取りに行く。1年間育てたのを5年生でここに植えて、6年生で草を刈る。そんなことをはじめました。

これはシカです。とんでもない数で増えています。10年前は胸ぐらいまでのササがあったところが、シカに食われて去年は10cm。今年、なくなりました。なくなってからだいたい3年でササの根が枯れます。それからは大量の土壌流出で、1年に数cm流されます。なんでシカがこんなに増えたか。戦後一時絶滅状態になったので保護したのですが、その期間が長過ぎました。シカの死因の第一位は、生まれた子がその年の雪で死ぬことでした。それが温暖化で雪が降らなくなった。猟師は高齢化してもう射てない。しかも、数が増えたために、下の畑はもちろん、これまでいかなかった高い所まで上がっています。間伐して実生で下から生えてきたのを全部食べちゃうんですね。根本的にはシカを減らすしかありませんが、もう猟師がいない以上、自衛隊に巻き狩りでもやってもらう以外ないかな。このシカ問題は、シカが人間に対して害をしてるんじゃない、日本の自然にとってものすごい脅威になるんだっていう国民的な議論にならないかぎり、解決しないと思います。

これはマツ枯れです。マツはパイオ

ニアツリーです。コナラなんかが増えて土が豊かになってきて自然な遷移を経て枯れていくものと、それからマツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウで枯れていきますね。自然な遷移で枯れるのは仕方ないですが、急斜面でマツしかないところで枯れちゃうとやっぱり崩れます。この対策としてやっているのは、植生調査です。いま2か所ぐらいで試験的に航空レーザーを取り入れました。ヘリコプターで飛ばしますと、だいたい5cmぐらいの誤差で、地表の起伏が全部とれます。それを見たうえで、この斜面はどうしても守りたい、というのをやります。

これがナラ枯れです。カシノナガキクイムシが原因といわれますが、これは日本海側、それこそ東北でミズナラの巨木をほそぼそと食べてたムシです。日本では、ブナ科の落葉樹が巨木化するってあんまりなかった。20年ぐらいの細いときに根際から切って、薪とか、炭とか、しいたけのほど木とかに使ってきた。ところが、燃料革命がおこって炭や柴をつかわなくなり、全部巨木になっちゃった。このムシは、ミズナラやコナラの巨木を早く倒して、土に戻して、後継樹を育てる役割を担っていた。ただ餌がすくなくいので、でかい木をみつけるとフェロモンをだして仲間を呼んで、1本食いつくす。その子たちが気づいたら山一面ごちそうになってたんですね。こうなると始末におえない。日本海側の巨木は20年ぐらいで全部やられました。いま、日本海側から広がっています。大発生を繰り返しているあいだに細い木にも入るようになった。ブナ科は全てやられます。防ぎようがありません。なんとかしようとして研究をしていますが、たぶん無理でしょう。これは人間に対するしっぺ返しです。

●自然のバランスを取り戻せ

マツクイムシにしてもヒノキにしてもシカ、ナラ枯れにしても、実は全部人間が自然を単調化した結果です。竹

もそうです。自然というのはいろんなものが生えてることによってバランスをとっている。100種類の木が生えていて、1本だけ枯れたのならこんな問題は起こらないし、何よりも大発生は起こりません。山の半分が餌だっということが問題なわけです。そもその原因は自然を単調化してしまったことなから、その単調な自然をもう少し複雑なものにもどしていこうじゃないか。大切なのは1種類の木が生えているより10種類の木が生えている方が環境の変化に強い。100種類あればもっといい。だからその土地にあった複雑な生態系を取り戻せば、もう少し強い環境ができるんじゃないか。バランスをくずして一気に増える環境をつくってしまったのは人間です。ですから、そういうなんらかの大発生はたぶん警告です。それを真摯にうけとめて、バランスをとるようにもっていく、その部分は人為的にしなければいけないかなと思っています。

山梨県の白州に蒸溜所があります。この工場をつくったときには、75haの土地を買って、50haを森に残し、そこを鳥の聖域、バード・サンクチュアリにしました。ここはいま健全なマツの林ですが、このまわりではマツ枯れがどんどん広がっています。バード・サンクチュアリにはアオゲラとかコゲラとか、ムシを食う鳥がいっぱいいる。入ってきたら、いち早く食ってくれる。われわれはこの森で鳥を守るつもりでいたんですが、現実には鳥に守られて



いる。その上をいま初期整備をしますが、上まで登るのに2時間半かかって作業どころじゃないので、最初に歩道整備と、上に調査小屋をたてました。頑丈なのは、クマがいるからです。それからシカ。そこでどんなことが起こっているか調べるために、土壌、地下の水文、シカ害と砂防、水中ウイルスの専門家なんかに来てもらっています。

地下でどんな流れができていのかを見るために、細い井戸を掘って地下の状態をみていきます。水質とか水量にシカがどんな影響をあたえているのかとか、どんなかたちで地下に水が漏れてるかみるわけです。雨が降ってくると、すぐ川の量が増えますよね。あれ、降ってすぐでできていわけじゃなくて、10年ぐらい前のが押し出されてくる。いまみたいに放射能汚染があるときも地下水はけっこうバリアされてるんです。もうひとつ、団粒化した土壌はだいたいマイナスに帯電しているので、セシウムみたいなプラスイオンはそこに吸着されます。われわれが地下水を使っているのは、地下水はただだからか、よくわからないんですけど、いまになってみれば先見性があったのかもしれない。



●豊かな自然を未来に残すために

われわれが天然水の森でおこなっていることは、土壌を守ることです。ただ、やみくもに全部厚い土壌をつくるのではなく、尾根はやっぱり痩せ地で、マツを育てる。谷筋とか、そういうところは厚い土壌があった方がいい。上で水が流れて下できちっと受け止めてくれる場があればいいわけです。木には必ず適材適所があります。それぞれの場所にいいものを植え、モザイクができあがって、全体としてみると、われわれがやる前よりは、土は厚く、木の種類が増えている。複雑性が少し増している。そこにいる鳥や虫たちも、少し増える。健康な、免疫力の強い森に徐々にうつっていくことを目指しています。そういう土ができることで正常で豊かな自然が未来に残ることを願っています。

最後にちょっと宣伝です。

7000haという目標は、あくまで、いまの生産量に基づいたものです。ですからこれがもっともっと売れた場合、当然この目標を上にしなないといけない。サントリー製品が売れば売れるほど、日本の森がよくなる。そういうような関係が確立されるようにがんばりたいと思っています。

## 宇久須合宿報告

立崎 祥子 (GEN 会員)

5月13日～15日、静岡県西伊豆の宇久須で、子どももまじえて23人が参加してGEN 関東 brunch 宇久須合宿が開かれました。今回も、宇久須まちづくり協議会スローライフ部会のみなさんはじめ、地元の方々にあたたかく迎えていただきました。

5月13日 (金)

18:30 海鮮料理「カネジョウ」で自己紹介、夕食。海鮮焼が新鮮でとてもおいしかった。

5月14日 (土)

9:00 休耕田で作業。

まずうねづくり。簡単そうに見えたが、クワで土が思うようにすくえず、

難しかった。

次にクウシンサイ播種とヤーコン苗の定植。苗は深めに植えてしっかり土でおさえるのがポイント。

10:00 薪割り。オノが狙った場所に当たらず、難しかった。真上からまっすぐに振り下ろすのがコツ。

10:10 アシタバの除草。他の参加者は



上手だったが、私は手際が悪かった。

11:00 無煙炭化器で炭焼き。薪・新聞紙・段ボールを入れ、着火。勢いよく燃

えた。約40分で炭の完成。

12:00 昼食：イノシシ鍋・イノシシ焼肉。  
軟らかくて臭みがなく、本当におい  
しかった。地元の方々に温かくもて  
なされて、嬉しかった。

13:00 アシタバ畑でうねの間の土をほ  
ぐし、土をアシタバの根元へ。土が  
重く、クワがうまく使えなかった。

13:30 作業終了

15:00 沢田公園へ。崖上の露天風呂  
に入る。風は強いが景色は最高。

19:00 宇久須の方々との交流会

5月15日(日)

9:00 GEN畑で作業。

まずはうねづくり。クワの刃を全体的  
に使って土を寄せる。次にマルチ  
はり。端を土できっちり押さえる。

最後にサツマイモ・ヤーコ  
ン定植。収穫が楽しみ。

11:30 黄金崎で磯遊び、テン  
グサ拾い。子どもたちは初  
めての海に大興奮。

12:00 昼食：フジツボ味噌汁、  
ムロアジ干物を七輪で焼い  
たもの。美しい景色をなが  
めながらごちそうをいただ  
けて、最高に贅沢な気分。

13:30 解散。

\* \* \* \* \*

きれいな海・山の緑・美しい夕日・  
おいしい料理・地元の人の温かいもて  
なし。宇久須には、都会にないものが  
たくさんありました。普段の生活では  
できない体験ができて、本当に楽しかつ



たです。無煙炭化器は、森と畑、森と海、  
森と人を結びつけていました。ぜひ多  
くの方に、宇久須を訪れて、その魅力  
を知ってもらいたいと思います。

## 関東ブランチ宇久須宿舎オープン!

静岡県西伊豆の宇久須で関東ブラン  
チの畑が誕生したからには、ちゃんと  
世話をしなければ、ということで関東  
ブランチの宿舎を今年度7月～11月の  
期間限定で開設しました。

とても広い平屋の戸建て。8畳間2室、  
6畳間2室、広々としたキッチン、風呂  
も完備。

4つのグループが同時に宿泊可能、合  
宿などでしたら20名まで可能。

GEN会員およびその家族でしたら、  
どなたでも宿泊可能です。1泊：大人

1,000円、高校生・大学生500円、中学  
生以下0円。

宇久須は、新幹線の三島駅からバス  
で1時間半ほど、車でも沼津ICから1  
時間半ほど。海と山に囲まれた居心地  
の良い里です。夏の海水浴・磯釣り・  
ダイビング・秋のハイキングなどの拠  
点にも利用できます。

宿泊希望者は事前に、GEN世話人の  
藤原國雄〈wbs03014@mail.wbs.ne.jp〉ま  
でご連絡ください。

## 関東ブランチ

### 9月度例会のお知らせ

○日時：2011年9月17日15時～18時

○内容：

★「黄土高原に咲く緑化と交流の花」  
山崎努さん(国際ボランティア学生協  
会本部事務局)

★夏のツアーの参加者のみなさんか  
らの大同最新情報報告

○場所：学習院大学東洋文化研究所会  
議室(JR山手線目白駅すぐ)

○事前申込み不要・参加費無料

## 本の紹介

『逃げる男・追う女 東アジアの説話  
半月弧』谷口義介著/現代思潮新社/  
2,800円+税

本紙連載『黄土高原史話』(今号休載)  
はどろどろの北魏王朝に突入、絶好調  
の谷口先生ですが、この新著では、北  
魏の骨肉の争いではなく、男女のどろ  
どろ。中国の白蛇伝では蛇が女に化け  
て男を追い、朝鮮の義湘伝では男を追っ  
て入水した女が龍になり、日本の道成  
寺では娘が男を追って蛇に変じます。  
それらを読み解きながら、東アジアの  
「太母」のイメージを追い、さらに……。  
本紙読者にはおなじみの軽妙な語り口

で、ちょっと違ったテーマを追った興  
味深い1冊です。

『風に追われ水が蝕む中国の大地—緑の  
再生に向けた取り組み—』吉川賢・山  
中典和・吉崎真司・三木直子編/学報  
社発行/大学図書発売/2,400円+税

中国の乾燥地で緑化に取り組む研究  
者やボランティア等が執筆。内蒙古の  
砂漠や黄土高原の現状と緑化への努力  
が紹介されています。企業やJICAの取  
り組みも知ることができ、中国の砂漠  
化地域での日本の緑化協力がわかりま  
す。高見事務局長の寄稿あり。

『国際森林年 森の明日を考える12章』  
森林環境研究会編著/(財)森林文化  
協会発行/朝日新聞出版発売/2,000円

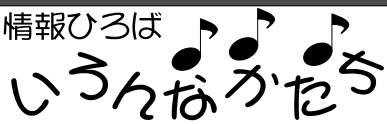
+税

熱帯、マングローブ、過耕作地、寒  
冷地、里山、世界のさまざまな森林の  
現状と今後について論じられています。  
巻末にはデータも入っています。高見  
事務局長の寄稿あり。

『生命体「黄河」の再生』李国英・芦田  
和男・澤井健二・角哲也編著/京都大  
学学術出版会/4,800円+税

李国英氏の「維持黄河健康生命」(2005  
年)の翻訳に、日本人研究者の黄河に  
関する文章を付け加えたもの。中国の  
母なる河、黄河の現状と問題点を論じ  
ています。谷口義介さんの寄稿あり。

情報ひろば



スマトラ沖地震津波、中国四川大地震

東日本大震災

緊急支援活動に参加して

東日本大震災では岩手県大槌町の避難所で診療にあたった打出医師のお話です。

- 日時：7月30日(土) 15時～17時
- 講師：打出啓二さん(下地診療所院長、JICA 国際緊急援助隊医療チーム登録隊員)
- 場所：大阪 YWCA シャロン千里 (tel. 06-6872-0527 阪急「北千里」駅から西へ徒歩5分)
- 参加費：500円(学生以下無料)
- 当日参加可
- 主催・申込み・問合せ：大阪 YWCA 千里ボランティア委員会 (〒565-0874 吹田市古江台3-93 tel. 06-6872-0527 fax. 06-6872-0503 e-mail : senri@osaka.ywca.or.jp URL http://osaka.ywca.or.jp/)



\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。

主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

\*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

自然環境市民大学

1日体験入学

自然環境市民大学の講座を、1コマ体験してみませんか。

- 保険料：300円
- 先着若干名。1人1回のみ。
- 問合せ・申込み：(社)大阪自然環境保全協会市民大学係 (〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202号室 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 e-mail : office@nature.or.jp URL http://www.nature.or.jp)
- 対象講座
  - 8月3日(水)「ツバメの孵入り」京阪観月橋18時集合
  - 9月14日(水)「植物2」泉北・光明池
  - 9月21日(水)「金剛山の自然」金剛山
  - 9月28日(水)「昆虫2」明日香・甘樫の丘
  - 10月1日(土)「野生動物との共存」奈良公園

- 10月8日(土)「野鳥2」南港野鳥園
  - 11月2日(土)「キノコに親しむ」高円山
  - 11月16日(水)「地域の保全活動」富田林奥の谷
  - 1月18日(水)「保全運動」槇尾川ダム計画地予定
  - 2月15日(水)「哺乳類」箕面鉢伏山または青貝山
- ※8月3日以外は10時～15時30分頃

編集後記

縄文人がとっても危険なゴミを地下深くに埋めていたのが、長い間の地殻変動によって地表にでてきました。ぼろぼろになった容れ物の表面には、消えかけた記号がありましたが、もちろん、現代の人類にその意味などわかるはずありません。学者たちが先を争って研究し、地元には観光客が殺到し、やがて奇病が流行してバタバタと人が倒れてゆき……。

たとえ100%安全で事故がなかったって、原発は止めるべきだと思うのです。

(東川)